

日本におけるフロン類(冷媒)の現状

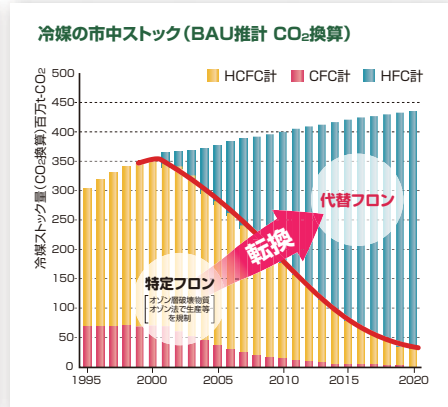
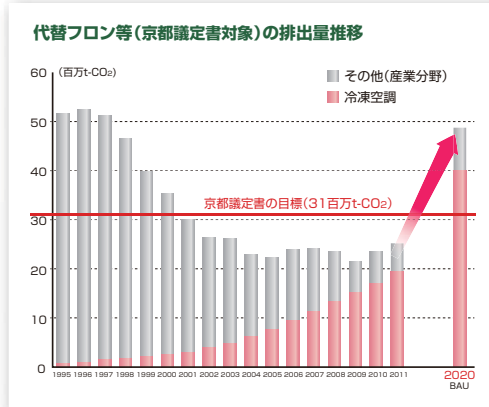
冷媒漏洩率
16%

スーパーマーケットで使用されるショーケースは、
年間平均で冷媒充填量の「16%」が漏洩している。(経済産業省 調査結果)

オゾン層保護の為に規制された「特定フロン」に代わり「代替フロン」の使用が急増。
冷凍空調機器における代替フロンによる温室効果ガス排出量は2020年で約4000万t-CO₂になると予測されており、我が国の温室効果ガス排出量に占める割合は約4%となる。
この値は京都議定書削減目標(3100万t-CO₂)を上回る。

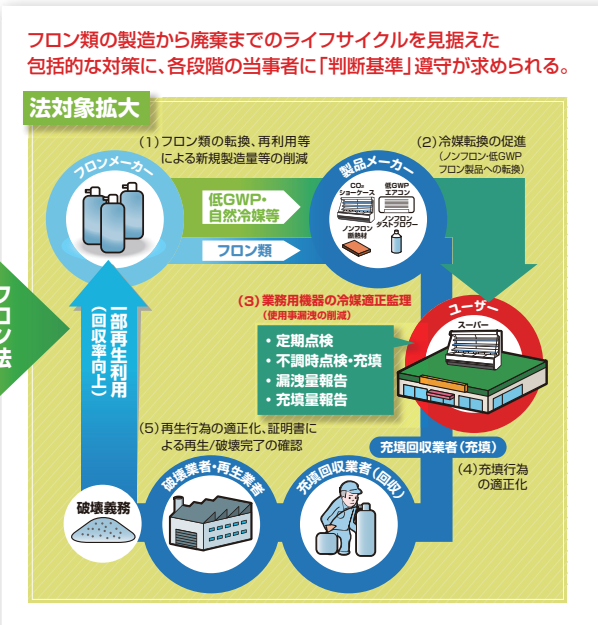
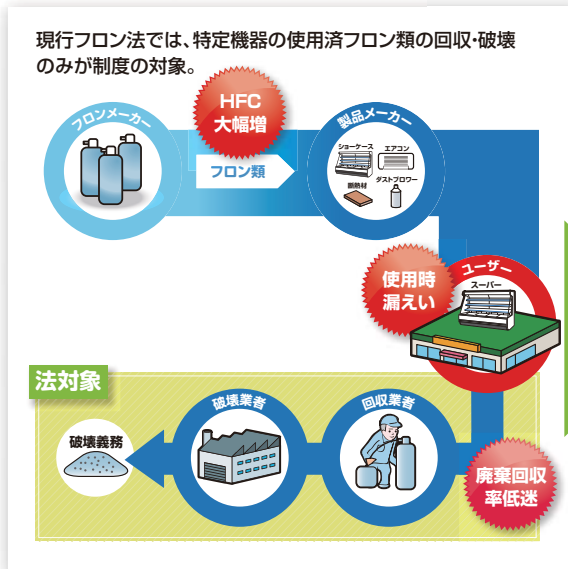
温室効果ガス
排出量急増

2011年の排出量は、基準年(1995年)比、産業分野で▲89%、冷凍空調機器では24倍。



(BAU: Business As Usual ※フロン分野の排出推計においては、現状の対策を継続した場合の推計を示す。)
出典: 実績は政府発表値。2020年予測は、冷凍空調機器出荷台数(日本冷凍空調工業会)、使用時漏えい係数、廃棄係数、回収実績等から経済産業省試算。

フロン回収破壊法 改正



出典: 経済産業省 特定フロン類の回収及び破壊の実施の確保に関する法律の一部を改正する法律案概要より作成